

気象警報・注意報（H 2 7）の解説（XML フォーマット）

気象警報・注意報（H 2 7）XML の構造は気象庁防災情報 XML フォーマットに従います。本解説の内容は今後の運用の変更に伴って変わる可能性があります。

本資料中で用いる用語について

- ・「前回電文」とは、参照中の電文（当該電文）と、情報名称（Control/Title）、運用種別（Control/Status）及び発信官署（Control/EditorialOffice）が同一である電文の中で、発表時刻（Head/ReportDateTime）が当該電文の直近過去である電文を指す。
- ・本資料中で参照しているコードに関する表番号は、気象庁防災情報XMLフォーマット辞書・コード管理表中の番号である。
- ・「府県予報区等」は、次の場合を除き、府県予報区を指す。
 - ・北海道（宗谷地方、及び網走・北見・紋別地方を除く）については、一次細分区域を用いる。
 - ・鹿児島県については、「鹿児島県（奄美地方除く）」又は「奄美地方」を用いる。
- ・「一次細分区域等」は、原則として一次細分区域を指す。
- ・「市町村等をまとめた地域等」は、原則として市町村等をまとめた地域を指す。ただし、市町村等をまとめた地域の設定がない場合には、一次細分区域を指す。

1. Control 部

```
<Control>
  <Title>気象警報・注意報（H 2 7）</Title>
  <DateTime>2013-09-15T01:59:23Z</DateTime>
  <Status>通常</Status>
  <EditorialOffice>富山地方気象台</EditorialOffice>
  <PublishingOffice>富山地方気象台</PublishingOffice>
</Control>
```

1 - 1 Title

電文の種別を示すための情報名称。

〔解説〕 “気象警報・注意報（H 2 7）” を記載する。

1 - 2 DateTime

発信時刻。

〔解説〕 年月日時分秒を UTC 表記の dateTime 型で記載する。

1 - 3 Status

運用種別。

〔解説〕 “通常”、“訓練”、“試験” のいずれかを記載。

1 - 4 EditorialOffice

編集官署名。

〔解説〕 実際に発表作業を行った官署名を示す。

1 - 5 PublishingOffice

発表官署名。

〔解説〕 業務的に発表した官署名を示す。

2. Head 部

```
<Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
  <Title>富山県気象警報・注意報</Title>
  <ReportDateTime>2013-09-15T10:59:00+09:00</ReportDateTime>
  <TargetDateTime>2013-09-15T10:59:00+09:00</TargetDateTime>
  <EventID />
  <InfoType>発表</InfoType>
  <Serial />
  <InfoKind>気象警報・注意報</InfoKind>
  <InfoKindVersion>1.2_2</InfoKindVersion>
  (略)
```

2 - 1 Title

情報の標題

〔解説〕 電文が対象とする地域の名称に続いて、“気象警報・注意報”を記載する。

2 - 2 ReportDateTime

発表時刻

〔解説〕 発表時刻を JST 表記の dateTime 型で表記する。時刻は分単位で、秒は常に“00”。

2 - 3 TargetDateTime

基点時刻

〔解説〕 発表時刻に同じ。

2 - 4 EventID

識別情報

〔解説〕 常に空タグとなる。

2 - 5 InfoType

情報形態

〔解説〕 “発表”、“訂正”のいずれかを記載。

2 - 6 Serial

情報番号

〔解説〕 常に空タグとなる。

2 - 7 InfoKind 及び InfoKindVersion

スキーマの運用種別情報 (InfoKind)、及びスキーマの運用種別情報のバージョン番号 (InfoKindVersion)

〔解説〕 1 InfoKind は、“気象警報・注意報”で固定。

2 InfoKindVersion には、バージョン番号を文字列で記載する。

2 - 8 Headline 部

〔当該府県予報区に気象特別警報が発表されているときの例〕

```
<Headline>
  <Text>【特別警報（大雨）】東部南、西部北に特別警報を発表しています。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に最大級の警戒をしてください。</Text>
  <Information type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
    (略)
```

〔当該府県予報区に気象特別警報が解除された時点の例〕

```
<Headline>
  <Text>【警報に切り替え】富山県では、15日昼前まで土砂災害や河川の増水に警戒してください。</Text>
  <Information type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
    (略)
```

〔当該府県予報区に気象特別警報が発表されていないかつ解除された時点でもないときの例〕

```
<Headline>
  <Text>富山県では、15日昼前まで土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に警戒してください。</Text>
  <Information type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
    (略)
```

2 - 8 - 1 Text

見出し文

[解説] 注意警戒文を記載する。当該府県予報区内に特別警報を発表中の市町村等があるときは、文頭に“【特別警報（〇〇、〇〇…）】”の書式で、〇〇に発表中の特別警報名を列記する。当該府県予報区から特別警報を発表する市町村等がなくなったときは、文頭に“【警報に切り替え】”、“【注意報に切り替え】”、“【特別警報解除】”のいずれかを記載する。

2 - 8 - 2 Information 部

[解説]] 1 属性 type により分類され、繰り返し出現する。属性 type が同一のものが複数回出現することはない。

2 属性 type のとりうる値は以下の通り。

“気象警報・注意報（府県予報区等）”
“気象警報・注意報（一次細分区域等）”
“気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）”
“気象警報・注意報（市町村等）”
“気象警報・注意報（警報注意報種別毎）”

2 - 8 - 2 - 1 Information[@type=“気象警報・注意報（府県予報区等）”]部

[解説] 府県予報区等の単位で、区域内の市町村等に発表中の特別警報・警報・注意報をまとめた内容を記載する。

[区域内の市町村等に発表中の特別警報・警報・注意報がある場合]

```
<Information type=“気象警報・注意報（府県予報区等）”>
  <Item>
    <Kind>
      <Name>大雨注意報</Name>
      <Code>10</Code>
    </Kind>
    <Kind>
      <Name>洪水注意報</Name>
      <Code>18</Code>
    </Kind>
    <Areas codeType=“気象情報／府県予報区・細分区域等”>
      <Area>
        <Name>富山県</Name>
        <Code>160000</Code>
      </Area>
    </Areas>
  </Item>
</Information>
```

[区域内の市町村等に発表中であった特別警報・警報・注意報が、すべて解除された場合]

```
<Information type=“気象警報・注意報（府県予報区等）”>
  <Item>
    <Kind>
      <Name>解除</Name>
      <Code>00</Code>
    </Kind>
    <Areas codeType=“気象情報／府県予報区・細分区域等”>
      <Area>
        <Name>富山県</Name>
        <Code>160000</Code>
      </Area>
    </Areas>
  </Item>
</Information>
```

2 - 8 - 2 - 1 - 1 Item 部

特別警報・警報・注意報種別（Kind 部）及び府県予報区等（Areas 部）を記載する。

[解説] 特別警報・警報・注意報が発表中である市町村等を含む府県予報区等、及び区域内の市町村等に発表中であった特別警報・警報・注意報がすべて解除された府県予報区等の数だけ出現する。

2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 Kind 部

府県予報区等内の市町村等で発表中の特別警報・警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、状況 (Condition) を記載する。

〔解説〕 1 Kind 部は府県予報区等内に含まれる市町村等で発表中である特別警報・警報・注意報の種類数だけ出現する。

2 特別警報・警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。

3 大雨特別警報、大雨警報、大雨注意報のように、同一の現象に対する特別警報や警報、注意報が府県予報区等内の異なる市町村等で同時に発表されている場合、それらに特別警報が含まれるときは特別警報のみ、特別警報が含まれず警報が含まれるときは警報のみ記載する。同一の現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせは以下の通り。

暴風雪特別警報 と 暴風雪警報 と 風雪注意報

大雪特別警報 と 大雪警報 と 大雪注意報

大雨特別警報 と 大雨警報 と 大雨注意報

高潮特別警報 と 高潮警報 と 高潮注意報

洪水警報 と 洪水注意報

波浪特別警報 と 波浪警報 と 波浪注意報

暴風特別警報 と 暴風警報 と 強風注意報

4 当該府県予報区等内の市町村等に発表中であった特別警報・警報・注意報がすべて解除された場合は、Kind 部は 1 回出現し、特別警報・警報・注意報の種別名 (Name) に“解除”、コード (Code) に“00”が記載される。

5 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を記載し、Kind 部が大雨警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。このため、Condition の値と、特記事項 (Body/Warning/Item/Kind/Attention/) に示す“〇〇警戒”、“〇〇注意”とで、必ずしも一致しないことに留意する必要がある。例えば、「大雨警報 (土砂災害、浸水害)」から「大雨特別警報 (土砂災害)」に切り替わった場合、Condition には“土砂災害”の値が入ることとなるため、もし浸水害に係る警戒・注意事項を確認したい場合は、Body/Warning/Item/Kind/Attention/ に示す特記事項を確認する必要がある。

2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 2 Areas 部

Kind 部で内容を述べた府県予報区等の名称 (Area/Name)、コード (Area/Code) を記載する。

〔解説〕 1 Item 以下に Areas 部は 1 回だけ出現する。Areas 以下に Area 部は 1 回だけ出現する。

2 Areas の属性 codeType に記載されるコード種別名は“気象情報／府県予報区・細分区域等”固定。

3 府県予報区等の名称と対応するコードは code.AreaForecastLocalM (表 1.5.3.2、詳細は別途提示)。

2 - 8 - 2 - 2 Information[@type="気象警報・注意報 (一次細分区域等)"] 部

〔解説〕 一次細分区域等の単位で、区域内の市町村等に発表中の特別警報・警報・注意報をまとめた内容を記載する。

2 - 8 - 2 - 2 - 1 Item 部

2 - 8 - 2 - 1 - 1 の内容の“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替えたものに同じ。

2 - 8 - 2 - 3 Information[@type="気象警報・注意報 (市町村等をまとめた地域等)"] 部

〔解説〕 市町村等をまとめた地域等の単位で、区域内の市町村等に発表中の特別警報・警報・注意報をまとめた内容を記載する。

2 - 8 - 2 - 3 - 1 Item 部

2 - 8 - 2 - 1 - 1 の内容の“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替えたものに同じ。

2 - 8 - 2 - 4 Information[@type="気象警報・注意報 (市町村等)"] 部

〔解説〕 市町村等に発表中の特別警報・警報・注意報を記載する。

2 - 8 - 2 - 4 - 1 Item 部

特別警報・警報・注意報種別 (Kind 部) 及び対象の市町村等 (Areas 部) を記載する。

[解説] 1 Item 部は発表中の特別警報・警報・注意報がある市町村等、及び発表中であった特別警報・警報・注意報がすべて解除された市町村等の数だけ出現する。

2 - 8 - 2 - 4 - 1 - 1 Kind 部

発表中の特別警報・警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、状況 (Condition) を記載する。

[解説] 1 Kind 部は当該市町村等で発表中の特別警報・警報・注意報の数だけ出現する。

2 特別警報・警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。

3 ただし、当該市町村等の特別警報・警報・注意報をすべて解除する場合は、特別警報・警報・注意報の種別名 (Name) に“解除”、コード (Code) に“00”を記載する。

4 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を記載し、Kind 部が大雨警報の場合には、大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。このため、Condition の値と、特記事項 (Body/Warning/Item/Kind/Attention/) に示す“〇〇警戒”、“〇〇注意”とで、必ずしも一致しないことに留意する必要がある。例えば、「大雨警報 (土砂災害、浸水害)」から「大雨特別警報 (土砂災害)」に切り替わった場合、Condition は“土砂災害”の値が入ることとなるため、もし浸水害に係る警戒・注意事項を確認したい場合は、Body/Warning/Item/Kind/Attention/に示す特記事項を確認する必要がある。

2 - 8 - 2 - 4 - 1 - 2 Areas 部

Kind 部で内容を述べた市町村等の名称 (Area/Name)、コード (Area/Code) を示す。

[解説] 1 Item 以下に Areas 部は 1 回だけ出現する。Areas 以下に Area 部は 1 回だけ出現する。

2 Areas の属性 codeType に記載されるコード種別名は“気象・地震・火山情報／市町村等”固定。

3 市町村等の名称と対応するコードは、code.AreaInformationCity (表 1.5.3.2、詳細は別途提示)。

2 - 8 - 2 - 5 Information[@type="気象警報・注意報 (警報注意報種別毎)"] 部

特別警報・警報・注意報種別毎に、当該特別警報・警報・注意報が発表されている市町村等を、地域名 (府県予報区等、一次細分区域等、市町村等をまとめた地域等) でまとめて記載する。

```
<Information type="気象警報・注意報 (警報注意報種別毎)">
  <Item>
    <Kind>
      <Name>大雨特別警報</Name>
      <Code>33</Code>
      <Condition>土砂災害、浸水害</Condition>
    </Kind>
    <Areas codeType="気象情報／府県予報区・細分区域等">
      <Area>
        <Name>東部北</Name>
        <Code>160012</Code>
      </Area>
      <Area>
        <Name>西部北</Name>
        <Code>160021</Code>
      </Area>
    </Areas>
  </Item>
  <Item>
    <Kind>
      <Name>大雨警報</Name>
      <Code>03</Code>
    </Kind>
    <Areas codeType="気象情報／府県予報区・細分区域等">
      <Area>
        <Name>東部南</Name>
        <Code>160011</Code>
      </Area>
    </Areas>
  </Item>
  <Item>
    <Kind>
      <Name>雷注意報</Name>
      <Code>14</Code>
    </Kind>
```

```

<Areas codeType="気象情報／府県予報区・細分区域等">
  <Area>
    <Name>富山県</Name>
    <Code>160000</Code>
  </Area>
</Areas>
</Item>
</Information>

```

〔解説〕 電文が対象とする地域内の市町村等に発表中の特別警報・警報・注意報がない場合には、Information[@type="気象警報・注意報（警報注意報種別毎）"]部は省略する。

2 - 8 - 2 - 5 - 1 Item 部

特別警報・警報・注意報種別(Kind 部)及び地域(Areas 部)を記載する。

〔解説〕 1 Item 部は Information[@type="気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）"]部に出現する特別警報・警報・注意報種別の種類数（ただし、解除を除く）だけ出現する。

2 - 8 - 2 - 5 - 1 - 1 Kind 部

発表中の特別警報・警報・注意報の種別名(Name)、コード(Code)、状況(Condition)を記載する。

〔解説〕 1 Kind 部は Item 以下に 1 回だけ出現する。

2 特別警報・警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。

3 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、電文が対象とする地域内の市町村等で述べられている大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を記載し、Kind 部が大雨警報の場合には、電文が対象とする地域内の市町村等で述べられている大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。

2 - 8 - 2 - 5 - 1 - 2 Areas 部

Kind 部の内容に対応する地域の名称(Area/Name)、コード(Area/Code)を示す。

〔解説〕 1 Item 以下に、Areas 部は 1 回だけ出現する。

2 Areas 以下に、Area 部は 1～複数回出現する。Area 部に記載する地域名の用い方は次の通り。

① Information[@type="気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）"]において、府県予報区等内のすべての市町村等をまとめた地域等に、当該特別警報・警報・注意報が記載されている場合は、府県予報区等名を用いる。

② ①以外の場合で、Information[@type="気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）"]において、一次細分区域等内のすべての市町村等をまとめた地域等に、当該特別警報・警報・注意報が記載されている場合には、一次細分区域等名を用いる。

③ ①、②以外の場合は、Information[@type="気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）"]において、当該特別警報・警報・注意報が記載されている市町村等をまとめた地域等名を記載する。

3 Areas の属性 codeType に記載されるコード種別名は“気象情報／府県予報区・細分区域等”固定。

4 府県予報区等、一次細分区域等、市町村等をまとめた地域等の名称と対応するコードは、code. AreaForecastLocalM（表 1.5.3.2、詳細は別途提示）。

3. Body 部

```
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/meteorology1/"
      xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
  <Notice>この電文はテストサンプルです。</Notice>
  <Warning type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
    (略)
  </Warning>
  <MeteorologicalInfos type="量的予想時系列（市町村等）">
    (略)
  </MeteorologicalInfos>
```

3 - 1 Notice

お知らせ

【解説】 お知らせを記載する場合、Body 以下に 1 回～複数回出現する。お知らせを記載しない場合は、タグを省略する。

3 - 2 Warning 部

【解説】 1 属性 type により分類され、繰り返し出現する。属性 type が同一のものが複数回出現することはない。

2 属性 type のとりうる値は以下の通り。

```
“気象警報・注意報（府県予報区等）”
“気象警報・注意報（一次細分区域等）”
“気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）”
“気象警報・注意報（市町村等）”
```

3 - 2 - 1 Warning[@type="気象警報・注意報（府県予報区等）"]部

府県予報区等の単位で電文が対象とする地域内の市町村等の特別警報・警報・注意報の内容を記載する。

```
<Warning type="気象警報・注意報（府県予報区等）">
  <Item>
    <Kind>
      <Name>大雨注意報</Name>
      <Code>10</Code>
      <Status>継続</Status>
      <LastKind>
        <Name>大雨注意報</Name>
        <Code>10</Code>
      </LastKind>
      <NextKinds>
        <NextKind>
          <Name>大雨警報</Name>
          <Code>03</Code>
          <Condition>浸水害</Condition>
          <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-09-16T00:00:00+09:00</DateTime>
          <Sentence>1 6 日未明までに大雨警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
        </NextKind>
      </NextKinds>
    </Kind>
    <Kind>
      <Name>洪水注意報</Name>
      <Code>18</Code>
      <Status>継続</Status>
      <LastKind>
        <Name>洪水注意報</Name>
        <Code>18</Code>
      </LastKind>
      <NextKinds>
        <NextKind>
          <Name>洪水警報</Name>
          <Code>04</Code>
          <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-09-16T00:00:00+09:00</DateTime>
          <Sentence>1 6 日未明までに洪水警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
        </NextKind>
      </NextKinds>
    </Kind>
  </Item>
</Area>
```

```

<Name>富山県</Name>
<Code>160000</Code>
</Area>
<ChangeStatus>警報・注意報種別に変化有</ChangeStatus>
<FullStatus>一部</FullStatus>
<EditingMark>1</EditingMark>
</Item>
</Warning>

```

3 - 2 - 1 - 1 Item 部

府県予報区等 (Area 部) 内の市町村等の特別警報・警報・注意報をまとめて、特別警報・警報・注意報の内容 (Kind 部)、内容の変更点の有無 (ChangeStatus)、域内全域または一部を示す識別子 (FullStatus)、編集識別子 (EditingMark) を記載する。

〔解説〕 Item 部は電文が対象とする地域内の府県予報区等の数だけ出現する。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 Kind 部

特別警報・警報・注意報の内容 (特別警報・警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、発表形態 (Status)、状況 (Condition)、前回の発表状況 (LastKind 部)、特別警報または警報への切り替え予告 (NextKinds 部)、特記事項 (Attention 部)、付加事項 (Addition 部)) を記載する。

〔解説〕 Kind 部は府県予報区等内に含まれる市町村等で発表中の特別警報・警報・注意報、及び前回電文で府県予報区等内に発表中である市町村等があり、当該電文で発表中である市町村等がなくなった特別警報・警報・注意報の数だけ出現する。府県予報区等内のいずれの市町村等においても発表中及び解除の特別警報・警報・注意報がない場合には、Kind 部は 1 回だけ出現する。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 1 Name、Code、Status、Condition

〔区域内に発表中の市町村等がある種別の場合〕

```

<Kind>
  <Name>大雨警報</Name>
  <Code>03</Code>
  <Status>継続</Status>
  <Condition>土砂災害、浸水害</Condition>
  (略)
</Kind>

```

〔前回電文で区域内の市町村等に発表中であった種別について、当該電文で発表中の市町村等がなくなった場合〕

```

<Kind>
  <Name>雷注意報</Name>
  <Code>17</Code>
  <Status>解除</Status>
</Kind>

```

〔区域内の市町村等に発表中、または解除の特別警報・警報・注意報がない場合〕

```

<Kind>
  <Status>発表警報・注意報はなし</Status>
</Kind>

```

〔解説〕 1 府県予報区等内の市町村等で発表中、または発表中であったものがすべて解除される特別警報・警報・注意報名 (Name) とコード (Code) を記載する。特別警報・警報・注意報種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。ただし、“00” (解除) のコードは使用しない。府県予報区等内のいずれの市町村等においても発表中及び解除の特別警報・警報・注意報がない場合には、Name、Code、Condition は省略する。

2 区域内に当該特別警報・警報・注意報を解除する市町村等があっても、当該特別警報・警報・注意報を発表中の市町村等がある場合には、解除の内容は記載しない。また、大雨特別警報、大雨警報、大雨注意報のように、同一の現象に対する特別警報や警報、注意報が府県予報区等内の異なる市町村等で同時に発表されている場合、それらに特別警報が含まれるときは特別警報のみ、特別警報が含まれず警報が含まれるときは警報のみ記載する。同一の現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 〔解説〕 3 に同じ。

3 発表形態 (Status) は特別警報・警報・注意報の種別 (Name) に対し次の通り設定する。

発表：当該特別警報・警報・注意報が、前回電文で府県予報区等のいずれの市町村等においても発表中でなく、当該電文で府県予報区等のいずれかの市町村等で発表中となる場合。

継続：当該特別警報・警報・注意報が、前回電文、当該電文ともに、府県予報区内等内の市町村等

のいずれかで発表中である場合。

特別警報から警報：前回電文で、当該警報と同一現象の特別警報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等でも発表されず、かつ同一現象の警報が発表中である場合。

特別警報から注意報：前回電文で、当該注意報と同一現象の特別警報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等でも発表されず、かつ同一現象の注意報が発表中である場合。

警報から注意報：前回電文で、当該注意報と同一現象の警報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等でも発表されず、かつ同一現象の注意報が発表中である場合。

解除：前回電文で、当該特別警報または当該警報または当該注意報が府県予報区等内の市町村等のいずれかで発表中で、当該電文で、府県予報区等内のいずれの市町村等においても、それと同一現象の特別警報・警報・注意報がいずれも発表中でない場合。

発表警報・注意報はなし：府県予報区等内のいずれの市町村等においても発表中、または解除される特別警報・警報・注意報がない場合。

- 4 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を記載し、Kind 部が大雨警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。このため、Condition に示す特に警戒すべき事項と、特記事項 (Body/Warning/Item/Kind/Attention/) に示す“〇〇警戒”、“〇〇注意”とで、必ずしも一致しないことに留意する必要がある。例えば、「大雨警報 (土砂災害、浸水害)」から「大雨特別警報 (土砂災害)」に切り替わった場合、Condition には“土砂災害”の値が入ることとなるため、もし浸水害に係る警戒・注意事項を確認したい場合は、Body/Warning/Item/Kind/Attention/に示す特記事項を確認する必要がある。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 2 LastKind 部

府県予報区等内の市町村等に発表中、または解除される特別警報・警報・注意報について、前回電文で同一の現象の特別警報・警報・注意報が発表中であった場合に、前回電文の内容 (特別警報・警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、状況 (Condition)) を記載する。前回電文で発表されていない場合は記載しない。同一の現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 [解説] 3 に同じ。

```
<Name>大雨警報</Name>
<Code>03</Code>
<Status>発表</Status>
<Condition>浸水害</Condition>
<LastKind>
  <Name>大雨注意報</Name>
  <Code>10</Code>
</LastKind>
```

[解説] 1 LastKind 部は Kind 以下に 0 回または 1 回出現する。

2 特別警報・警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。

3 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を記載し、Kind 部が大雨警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。

4 「暴風雪特別警報・警報と風雪注意報」及び「暴風特別警報・警報と強風注意報」を合わせて、同一の現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせと同等に扱い、LastKind 部に記載する場合がある。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 3 NextKinds 部

府県予報区等内の市町村等に発表中の警報・注意報について、「3 - 3 - 1 - 1 TimeDefines 部」で記載する全ての予報期間のいずれかにおいて、注意報については同一の現象の警報または特別警報へ、警報については同一の現象の特別警報へ切り替えて発表する可能性のあるとき、切り替える可能性のある特別警報・警報の内容 (特別警報・警報の種別名 (NextKind/Name)、コード (NextKind/Code)、状況 (NextKind/Condition))、切り替えて発表する可能性のある予報期間を示すための時間情報 (NextKind/DateTime)、発表の可能性の内容 (NextKind/Sentence) を記載する。同一の現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 [解説] 3 に同じ。

[NextKind 部が NextKinds の下に 1 回のみ出現する場合（洪水注意報から洪水警報に切り替える可能性が高い場合）]

```

<Name>洪水注意報</Name>
<Code>18</Code>
<Status>発表</Status>
<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>洪水警報</Name>
    <Code>04</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-09-16T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>1 6 日未明までに洪水警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
</NextKinds>

```

[NextKind 部が NextKinds の下に複数回出現する場合（強風注意報から暴風警報へ切り替えた後、暴風特別警報へ切り替える可能性が高い場合）]

```

<Name>強風注意報</Name>
<Code>15</Code>
<Status>発表</Status>
<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>暴風警報</Name>
    <Code>05</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>2 3 日未明までに暴風警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
  <NextKind>
    <Name>暴風特別警報</Name>
    <Code>35</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T06:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>2 3 日朝までに暴風特別警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
</NextKinds>

```

[NextKind 部が NextKinds の下に複数回出現する場合（府県予報区等内の市町村等で強風注意報が発表されており、これら市町村等の一部で暴風警報に、他の一部で暴風雪警報に切り替える可能性が高い場合）]

```

<Name>強風注意報</Name>
<Code>15</Code>
<Status>発表</Status>
<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>暴風警報</Name>
    <Code>02</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>2 3 日未明までに暴風警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
  <NextKind>
    <Name>暴風雪警報</Name>
    <Code>03</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T03:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>2 3 日朝までに暴風雪警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
</NextKinds>

```

- [解説] 1 NextKinds 部は Kind 以下に 0 回または 1 回出現する。NextKind 部は NextKinds が出現するとき NextKinds 以下に 1 回以上出現する。
- 2 特別警報・警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。
- 3 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を記載し、Kind 部が大雨警報の場合には、府県予報区等内の市町村等で述べられている大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。
- 4 DateTime は NextKind 以下に 1 回出現し、ある時間帯までに特別警報・警報へ切り替えて発表する可能性が高いとき、その時間帯の基点時刻を JST 表記の dateTime 型で記載する。DateTime の属性 significant は DateTime で記載される基点時刻の有効桁、属性 precision は基点時刻からの時間の幅（予報期間）を記載する。

- 5 Sentence は NextKind 以下に 1 回出現し、特別警報・警報へ切り替えて発表する可能性が高いとき、その内容を文章で記載する。
- 6 「暴風雪特別警報・警報と風雪注意報」及び「暴風特別警報・警報と強風注意報」を合わせて、同一の現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせと同等に扱い、NextKind 部に記載する場合がある。また、複数の NextKind 部を出現させ、暴風警報、強風注意報については、暴風特別警報・警報とともに暴風雪特別警報・警報の発表の可能性を、暴風雪警報、風雪注意報については、暴風雪特別警報・警報とともに暴風特別警報・警報の発表の可能性を記載する場合がある。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 4 Attention 部

当該特別警報・警報・注意報の種別に関する特記事項の内容を記載する。

```
<Attention>
  <Note>土砂災害警戒</Note>
  <Note>浸水警戒</Note>
</Attention>
```

- [解説] 1 府県予報区等内の市町村等において、当該特別警報・警報・注意報の種別に特記事項が付される場合に出現する。
- 2 複数の特記事項を記載する場合には、Note を必要回数繰り返す。
- 3 “土砂災害警戒”、“浸水警戒”は、それぞれの事項に対し大雨特別警報または大雨警報を発表する状況において、“土砂災害注意”、“浸水注意”は大雨注意報を発表する状況において記載する。大雨特別警報や大雨警報の場合、Condition に記述されない土砂災害または浸水害の状況についても、“〇〇警戒”または“〇〇注意”と記載する場合がある。例えば、「大雨特別警報（土砂災害）」の場合、Condition は“土砂災害”でも、Attention は“土砂災害警戒”に加えて“浸水警戒”または“浸水注意”の値が入ることがある。もし、大雨特別警報発表時、Attention で「〇〇警戒」と記載された事項について、大雨特別警報の特に警戒すべき事項かどうかを区別して処理する場合には、Condition と Attention とを合わせて処理する必要がある。

3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 5 Addition 部

当該特別警報・警報・注意報種別に関する付加事項の内容を記載する。

```
<Addition>
  <Note>突風</Note>
  <Note>ひょう</Note>
</Addition>
```

- [解説] 1 府県予報区等内の市町村等において、当該特別警報・警報・注意報種別に付加事項が付される場合に出現する。
- 2 当該府県予報区等内の市町村等における、当該特別警報・警報・注意報の種別の付加事項を Note に記載する。複数ある場合は、Note を必要回数繰り返す。

3 - 2 - 1 - 1 - 2 Area 部

Kind 部で表示する内容の対象となる府県予報区等の名称 (Name)、コード (Code) を記載する。

```
<Area>
  <Name>富山県</Name>
  <Code>160000</Code>
</Area>
```

- [解説] 1 Code に用いるコード種別名は“気象情報／府県予報区・細分区域等”
- 2 府県予報区等の名称と対応するコードは code.AreaForecastLocalM (表 1.5.3.2、詳細は別途提示)。

3 - 2 - 1 - 1 - 3 ChangeStatus

当該府県予報区等に関する内容の変化の有無を記載する。

- [解説] 1 当該府県予報区等の発表形態 (Kind/Status) が“発表警報・注意報はなし”である場合は、ChangeStatus は省略する。
- 2 ChangeStatus のとりうる値は次の通り。
- 警報・注意報種別に変化有：当該府県予報区等の Kind 部のうち、発表形態 (Status) が“発表”、“特別警報から警報”、“特別警報から注意報”、“警報から注意報”、“解除”であるものが 1 以

上含まれる場合。または、前回電文と比較して、当該府県予報区等の大雨特別警報または大雨警報の特に警戒すべき事項 (Condition) に変化があった場合。

警報・注意報種別に変化無、量的予想事項等に変化有：当該府県予報区等のすべての Kind 部の発表形態 (Status) が“継続”であって、かつ、大雨特別警報または大雨警報の特に警戒すべき事項 (Condition) が前回電文と比較して変化がない場合において、前回電文と比較して特記事項 (Attention)、付加事項 (Addition)、特別警報または警報への切り替え予告 (NextKind) 及び量的予想事項 (MeteorologicalInfos/TimeSeriesInfo/Item/Kind/Property) に変化がある Kind 部が 1 以上ある場合。

変化無：前回電文と比較して、当該府県予報区等の Kind 部の内容 (LastKind 部及び NextKinds 部を除く) に変化がない場合。

3 - 2 - 1 - 1 - 4 FullStatus

府県予報区等内の市町村等に発表中の特別警報・警報・注意報、または区域内の市町村等で解除される特別警報・警報・注意報が、区域内のすべての市町村等で同じか否かの識別子を記載する。

〔解説〕 1 当該府県予報区等の Status が“発表警報・注意報はなし”である場合には、FullStatus は省略する。

2 FullStatus のとりうる値は次の通り。

全域：府県予報区等内に特別警報・警報・注意報が発表中の市町村等がある場合には、府県予報区等内のすべての市町村等で発表中の特別警報・警報・注意報が同一である場合。府県予報区等内の市町村等で発表中であった特別警報・警報・注意報がすべて解除される場合には、府県予報区等内のすべての市町村等で解除される特別警報・警報・注意報が同一である場合。

一部：上記以外の場合。

3 - 2 - 1 - 1 - 5 EditingMark

電文が対象とする地域内の市町村等に発表されている特別警報・警報・注意報を、発表中の特別警報・警報・注意報の組み合わせが同一な区域名（府県予報区等、一次細分区域等、市町村等をまとめた地域等）でまとめて表現する場合に、当該区域を表現に使用するかどうかの識別符を記載する。

〔解説〕 1 当該府県予報区等の Status が“発表警報・注意報はなし”である場合には EditingMark は省略する。

2 EditingMark のとりうる値は次の通り。

1：当該府県予報区等を上記表現に使用する場合

0：当該府県予報区等を上記表現に使用しない場合

3 Warning[@type=“気象警報・注意報（府県予報区等）”]、Warning[@type=“気象警報・注意報（一次細分区域等）”]、Warning[@type=“気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）”]以下の、EditingMark の値が 1 である Item 部の内容（発表中の特別警報・警報・注意報がある場合は、解除される特別警報・警報・注意報を除く Kind 部）を抽出することにより、同種の特別警報・警報・注意報が発表されている地域を、より広い地域名でまとめた表現をすることができる。

3 - 2 - 2 Warning[@type=“気象警報・注意報（一次細分区域等）”]部

一次細分区域等の単位で電文が対象とする地域内の市町村等の特別警報・警報・注意報の内容を記載する。

3 - 2 - 2 - 1 Item 部

一次細分区域等 (Area 部) 内の市町村等の特別警報・警報・注意報をまとめて、特別警報・警報・注意報の内容 (Kind 部)、内容の変更点の有無 (ChangeStatus)、域内全域または一部を示す識別子 (FullStatus)、編集識別子 (EditingMark) を記載する。

〔解説〕 1 Item 部は一次細分区域等の数だけ出現する。出現順は一次細分区域等のコードの昇順とする。

3 - 2 - 2 - 1 - 1 Kind 部

3 - 2 - 1 - 1 - 1 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 2 - 1 - 2 Area 部

3 - 2 - 1 - 1 - 2 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 2 - 1 - 3 ChangeStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 3 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 2 - 1 - 4 FullStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 4 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 2 - 1 - 5 EditingMark

3 - 2 - 1 - 1 - 5 の内容のうち、“府県予報区等”を“一次細分区域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 Warning[@type="気象警報・注意報（市町村等をまとめた地域等）"]部

市町村等をまとめた地域等の単位で、電文が対象とする地域内の市町村等の特別警報・警報・注意報の内容を記載する。

3 - 2 - 3 - 1 Item 部

市町村等をまとめた地域等（Area 部）内の市町村等の特別警報・警報・注意報をまとめて、特別警報・警報・注意報の内容（Kind 部）、内容の変更点の有無（ChangeStatus）、域内全域または一部を示す識別子（FullStatus）、編集識別子（EditingMark）を記載する。

〔解説〕 Item 部は電文が対象とする地域内の市町村等をまとめた地域等の数だけ出現する。

3 - 2 - 3 - 1 - 1 Kind 部

3 - 2 - 1 - 1 - 1 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 - 1 - 2 Area 部

3 - 2 - 1 - 1 - 2 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 - 1 - 3 ChangeStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 3 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 - 1 - 4 FullStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 4 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 3 - 1 - 5 EditingMark

3 - 2 - 1 - 1 - 5 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等をまとめた地域等”に読み替える。

3 - 2 - 4 Warning[@type="気象警報・注意報（市町村等）"]部

市町村等の特別警報・警報・注意報の内容を記載する。

3 - 2 - 4 - 1 Item 部

市町村等における特別警報・警報・注意報について、特別警報・警報・注意報の内容（Kind 部）、内容の変更点の有無（ChangeStatus）、域内全域または一部を示す識別子（FullStatus）、編集識別子（EditingMark）を記載する。

〔解説〕 Item 部は電文が対象とする地域内の市町村等の数だけ出現する。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 Kind 部

特別警報・警報・注意報の内容（特別警報・警報・注意報の種別名（Name）、コード（Code）、発表形態（Status）、状況（Condition）、前回の発表状況（LastKind 部）、特別警報または警報への切り替え予告（NextKinds 部）、特記事項（Attention 部）、付加事項（Addition 部））を記載する。

〔解説〕 Kind 部は市町村等で発表中の特別警報・警報・注意報、及び当該電文で解除された特別警報・警報・注意報の数だけ出現する。当該市町村等で発表中及び解除の特別警報・警報・注意報がない場合には、Kind 部は 1 回だけ出現する。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 1 Name、Code、Status、Condition

〔発表中の種別の場合〕

```
<Kind>
  <Name>大雨警報</Name>
  <Code>03</Code>
  <Status>継続</Status>
  <Condition>土砂災害、浸水害</Condition>
  (略)
</Kind>
```

〔解除の種別の場合〕

```
<Kind>
  <Name>雷注意報</Name>
  <Code>17</Code>
  <Status>解除</Status>
</Kind>
```

〔発表中、または解除の特別警報・警報・注意報がない場合〕

```
<Kind>
  <Status>発表警報・注意報はなし</Status>
```

</Kind>

- [解説] 1 市町村等で発表中、または解除の特別警報・警報・注意報名 (Name) とコード (Code) を記載する。特別警報・警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。ただし、“00” (解除) のコードは使用しない。前回電文、当該電文ともに当該市町村等において発表中の特別警報・警報・注意報がない場合には、Name、Code、Condition は省略する。
- 2 発表形態 (Status) のとりうる値は“発表”、“継続”、“特別警報から警報”、“特別警報から注意報”、“警報から注意報”、“解除”、“発表警報・注意報はなし”。“発表警報・注意報はなし”は、当該市町村等において、発表中及び解除される特別警報・警報・注意報がない場合。各とりうる値の記載方法については、3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 1 [解説] 3 に同じ。
- 3 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を記載し、Kind 部が大雨警報の場合には、大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。このため、Condition に示す特に警戒すべき事項と、特記事項 (Body/Warning/Item/Kind/Attention/) に示す“〇〇警戒”、“〇〇注意”とで、必ずしも一致しないことに留意する必要がある。例えば、「大雨特別警報 (土砂災害)」に切り替わった場合、Condition には“土砂災害”の値が入ることとなるため、もし浸水害に係る警戒・注意事項を確認したい場合は、Body/Warning/Item/Kind/Attention/ に示す特記事項を確認する必要がある。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 2 LastKind 部

市町村等に発表中、または解除される特別警報・警報・注意報について、前回電文で同一現象の特別警報・警報・注意報が発表中であった場合に、前回電文の内容 (特別警報・警報・注意報の種別名 (Name)、コード (Code)、状況 (Condition)) を記載する。前回電文で発表されていない場合は記載しない。同一現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 [解説] 3 に同じ。

```
<Name>大雨警報</Name>
<Code>03</Code>
<Status>発表</Status>
<Condition>浸水害</Condition>
<LastKind>
  <Name>大雨注意報</Name>
  <Code>10</Code>
</LastKind>
```

- [解説] 1 LastKind 部は Kind 以下に 0 回または 1 回出現する。
- 2 特別警報・警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。
- 3 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を掲載し、Kind 部が大雨警報の場合には、大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。
- 4 「暴風雪特別警報・警報と風雪注意報」及び「暴風特別警報・警報と強風注意報」を合わせて、同一の現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせと同等に扱い、LastKind 部に記載する場合がある。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 3 NextKinds 部

市町村等に発表中の警報・注意報について、「3 - 3 - 1 - 1 TimeDefines 部」で記載する全ての予報期間のいずれかにおいて、注意報については同一の現象の警報または特別警報へ、警報については同一の現象の特別警報へ切り替えて発表する可能性のあるとき、切り替える可能性のある特別警報・警報の内容 (特別警報・警報の種別名 (NextKind/Name)、コード (NextKind/Code)、状況 (NextKind/Condition))、切り替えて発表する可能性のある予報期間を示すための時間情報 (NextKind/DateTime)、発表の可能性の内容 (NextKind/Sentence) を記載する。同一の現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせは、2 - 8 - 2 - 1 - 1 - 1 [解説] 3 に同じ。

```
[NextKind 部が NextKinds の下に 1 回のみ出現する場合 (洪水注意報から洪水警報に切り替える可能性が高い場合)]
<Name>洪水注意報</Name>
<Code>18</Code>
<Status>発表</Status>
<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>洪水警報</Name>
    <Code>04</Code>
```

```

<DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-09-16T00:00:00+09:00</DateTime>
<Sentence>1 6 日未明までに洪水警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
</NextKind>
</NextKinds>

```

〔NextKind 部が NextKinds の下に複数回出現する場合（強風注意報から暴風警報へ切り替えた後、暴風特別警報へ切り替える可能性が高い場合）〕

```

<Name>強風注意報</Name>
<Code>15</Code>
<Status>発表</Status>
<NextKinds>
  <NextKind>
    <Name>暴風警報</Name>
    <Code>05</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>2 3 日未明までに暴風警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
  <NextKind>
    <Name>暴風特別警報</Name>
    <Code>35</Code>
    <DateTime significant="yyyy-mm-ddThh" precision="PT3H">2013-10-23T06:00:00+09:00</DateTime>
    <Sentence>2 3 日朝までに暴風特別警報に切り替える可能性が高い</Sentence>
  </NextKind>
</NextKinds>

```

- 〔解説〕 1 NextKinds 部は Kind 以下に 0 回または 1 回出現する。NextKind 部は NextKinds が出現するとき NextKinds 以下に 1 回以上出現する。
- 2 特別警報・警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。
- 3 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を記載し、Kind 部が大雨警報の場合には、大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。
- 4 DateTime は NextKind 以下に 1 回出現し、ある時間帯までに特別警報・警報へ切り替えて発表する可能性が高いとき、その時間帯の基点時刻を JST 表記の dateTime 型で記載する。DateTime の属性 significant は DateTime で記載される基点時刻の有効桁、属性 precision は基点時刻からの時間の幅（予報期間）を記載する。
- 5 Sentence は NextKind 以下に 1 回出現し、特別警報・警報へ切り替えて発表する可能性が高いとき、その内容を文章で記載する。
- 6 「暴風雪特別警報・警報と風雪注意報」及び「暴風特別警報・警報と強風注意報」を合わせて、同一の現象に対する特別警報・警報・注意報の組み合わせと同等に扱い、NextKind 部に記載する場合がある。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 4 Attention 部

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 4 の内容のうち、“府県予報区等内の市町村等”を“市町村等”に読み替える。

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 Addition 部

3 - 2 - 4 - 1 - 1 - 5 の内容のうち、“府県予報区等内の市町村等”を“市町村等”に読み替える。

3 - 2 - 4 - 1 - 2 Area 部

Kind 部で表示する内容の対象となる市町村等の名称(Name)、コード(Code)を示す。

```

<Area>
  <Name>富山市</Name>
  <Code>1620100</Code>
</Area>

```

- 〔解説〕 1 Area は 1 回だけ出現する。
- 2 Code に用いるコード種別名は“気象・地震・火山情報／市町村等”
- 3 市町村等の名称と対応するコードは、code.AreaInformationCity（表 1.5.3.2、詳細は別途提示）。

3 - 2 - 4 - 1 - 3 ChangeStatus

3 - 2 - 1 - 1 - 3 の内容のうち、“府県予報区等”を“市町村等”に読み替える。

3 - 3 MeteorologicalInfos 部

市町村等に対応する時系列情報 (TimeSeriesInfo 部) を記載する。

```
<MeteorologicalInfos type="量的予想時系列 (市町村等)">
  <TimeSeriesInfo>
    <TimeDefines>
      (略)
    </TimeDefines>
    <Item>
      (略)
    </Item>
  </TimeSeriesInfo>
</MeteorologicalInfos>
```

[解説] 1 当該電文で特別警報・警報・注意報の全てが解除される場合、MeteorologicalInfos 部は省略される。
それ以外の場合は、MeteorologicalInfos 部は Body 以下に 1 回出現する。

2 属性 type の値は“量的予想時系列 (市町村等)”で固定。

3 - 3 - 1 TimeSeriesInfo 部

時刻定義セット (TimeDefines 部) と予報の内容 (Item 部) を時系列情報として記載する。

[解説] TimeSeriesInfo 部は、MeteorologicalInfos 以下に時刻定義セットの数だけ出現する。時刻定義セットの出現数は、当該電文で発表中の特別警報・警報・注意報の対象となる現象の種類の組み合わせに応じて決まる。

3 - 3 - 1 - 1 TimeDefines 部

全ての予報期間を示すとともに、対応する要素の個々の時刻定義 (TimeDefine 部) を記載する。

```
[予報期間が 3 時間毎の場合の時刻定義]
<TimeDefines>
  <TimeDefine timeId="1">
    <DateTime>2014-08-10T09:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT3H</Duration>
    <Name>10 日昼前</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="2">
    <DateTime>2014-08-10T12:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT3H</Duration>
    <Name>10 日昼過ぎ</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="3">
    <DateTime>2014-08-10T15:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT3H</Duration>
    <Name>10 日夕方</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="4">
    <DateTime>2014-08-10T18:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT3H</Duration>
    <Name>10 日夜のはじめ頃</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="5">
    <DateTime>2014-08-10T21:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT3H</Duration>
    <Name>10 日夜遅く</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="6">
    <DateTime>2014-08-11T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT3H</Duration>
    <Name>11 日未明</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="7">
    <DateTime>2014-08-11T03:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT3H</Duration>
    <Name>11 日明け方</Name>
  </TimeDefine>
```



```

<TimeDefine timeId="8">
  <DateTime>2014-08-11T06:00:00+09:00</DateTime>
  <Duration>PT3H</Duration>
  <Name>1 1 日朝</Name>
</TimeDefine>
<TimeDefine timeId="9">
  <DateTime>2014-08-11T09:00:00+09:00</DateTime>
  <Duration>PT3H</Duration>
  <Name>1 1 日昼前</Name>
</TimeDefine>
</TimeDefines>

```

〔予報期間が 1 日毎の場合の時刻定義〕

```

<TimeDefines>
  <TimeDefine timeId="1">
    <DateTime>2014-08-10T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>P1D</Duration>
    <Name>1 0 日</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="2">
    <DateTime>2014-08-11T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>P1D</Duration>
    <Name>1 1 日</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="3">
    <DateTime>2014-08-12T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>P1D</Duration>
    <Name>1 2 日</Name>
  </TimeDefine>
</TimeDefines>

```

〔解説〕 1 TimeDefines 部は TimeSeriesInfo 以下に 1 回出現する。

2 時刻定義の方法は対応する要素に応じて決まり、当該電文で発表中の特別警報・警報・注意報の対象となる要素に対応する時刻定義を記載する。特別警報・警報・注意報の種類に対応する時刻定義の内容は別表 2 のとおり。

3 - 3 - 1 - 1 - 1 TimeDefine 部

同一の TimeSeriesInfo 部で、気象要素の時系列での参照番号(refID)として用いるための時刻 ID を属性 timeID で記述し、基点時刻(DateTime)、対象期間(Duration)、時刻定義の内容(Name)を記載する。

〔解説〕 1 属性 timeID の値の範囲は、“1”～“9”、“1”～“3”のいずれかをとる。

2 DateTime は TimeDefine 以下に 1 回出現し、時刻定義の基点時刻を JST 表記の dateTime 型で記載する。

3 Duration は TimeDefine 以下に 1 回出現し、時刻定義における基点時刻からの期間を記載する。とりうる値は次のとおり。

PT3H : 予報期間を 3 時間と定義する場合

P1D : 予報期間を 1 日と定義する場合

4 時刻定義の内容は、対象となる予報期間を文章で記載する。3 時間の予報期間を定義した場合は「日付＋時間細分の表現」、1 日の予報期間を定義した場合は「日付」とする。時間細分の表現として使用する用語は別表 3 のとおり。

3 - 3 - 1 - 2 Item 部


予報の時系列等の内容(Kind 部)と対象地域(Area 部)を記載する。

```

<Item>
  <Kind>
    <Name>大雨警報</Name>
    <Code>03</Code>
    <Condition>土砂災害</Condition>
    <Property>
      <Type>危険度</Type>
      <SignificancyPart>
        (略)
      </SignificancyPart>
      <SubsequentSignificancyPart>

```

Kind 以下の Property 部の出現回数や Property/Type の内容は Item/Kind/Name の内容によって異なる。詳細は別表 4。

<pre> (略) </SubsequentSignificancyPart> </Property> <Property> <Type>雨</Type> <PrecipitationPart> (略) </PrecipitationPart> </Property> </Kind> <Area> <Name>富山市</Name> <Code>1620100</Code> </Area> </Item> </pre>	 <p>Kind 以下の Property 部の出現回数や Property/Type の内容は Item/Kind/Name の内容によって異なる。詳細は別表 4。</p>
--	--

〔解説〕 Item 部は TimeSeriesInfo 以下に、当該電文で特別警報・警報・注意報が発表されている市町村等の数だけ繰り返して出現する。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 Kind 部

対象となる市町村等で発表中の特別警報・警報・注意報の種別名(Name)、コード(Code)、状況(Condition)、量的予想事項の時系列等(Property 部)を記載する。

〔解説〕 Kind 部は Item 部以下に、当該市町村等で発表中の特別警報・警報・注意報の種類数だけ出現する。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 1 Name、Code、Condition

〔解説〕 1 特別警報・警報・注意報の種別名及び対応するコードは、別表 1 参照。

2 Condition は、当該特別警報・警報・注意報の状況を記載する場合に出現する。Kind 部が大雨特別警報の場合には、大雨特別警報としての特に警戒すべき事項を記載し、Kind 部が大雨警報の場合には、大雨警報としての特に警戒すべき事項を記載する。とりうる値は“土砂災害”、“浸水害”、“土砂災害、浸水害”。このため、Condition に示す特に警戒すべき事項と、特記事項(Body/Warning/Item/Kind/Attention/)に示す“〇〇警戒”、“〇〇注意”とで、必ずしも一致しないことに留意する必要がある。例えば、「大雨特別警報(土砂災害)」に切り替わった場合、Condition には“土砂災害”の値が入ることとなるため、もし浸水害に係る警戒・注意事項を確認したい場合は、Body/Warning/Item/Kind/Attention/に示す特記事項を確認する必要がある。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 Property 部

特別警報・警報・注意報種別ごとに量的予想事項を時系列等で記載する。気象要素の種類(Type)、特別警報・警報・注意報が対象とする気象現象の危険度時系列(SignificancyPart 部)、時刻定義セットの最後に記載される予報期間を超えて注意警戒期間が継続する場合のその先に予想される危険度(SubsequentSignificancyPart 部)、予想値の時系列等(WindDirectionPart 部等)を記載する。

〔解説〕 Property 部は Kind 以下に 1 回以上出現し、出現する Property/Type の内容及び組み合わせは、特別警報・警報・注意報の種別(Body/MeteorologicalInfos/TimeSeriesInfo/Item/Kind/Name)に依存する。また、各 Property 部に記載する内容は、気象要素の種類(. /Type)に依存する。特別警報・警報・注意報の種別に対応する Property 部の記載内容は別表 4 のとおり。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 1 Type

量的予想事項を時系列等で記載する気象要素の種類を記載する。特別警報・警報・注意報種別と記載する気象要素の種類の対応は別表 4 のとおり。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 2 SignificancyPart 部

気象要素に対応した危険度の時系列について諸要素を記載する。

地域の数による記述パターンの違いの例

〔地域全体について記載する場合〕

```

<SignificancyPart>
  <Base>
    <Significancy type="土砂災害危険度" refID="1">

```

```

    <Name>注意報級未満</Name>
    <Code>00</Code>
  </Significancy>
  <Significancy type="土砂災害危険度" refID="2">
    <Name>注意報級</Name>
    <Code>10</Code>
  </Significancy>
  (略)
  <Significancy type="土砂災害危険度" refID="9">
    <Name>警報級</Name>
    <Code>30</Code>
  </Significancy>
  <Attention>
    <Note>土砂災害警戒</Note>
  </Attention>
</Base>
</SignificancyPart>

```

〔地域を分けて記載する場合〕

```

<SignificancyPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>陸上</AreaName>
      <Significancy type="風危険度" refID="1">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significancy>
      <Significancy type="風危険度" refID="2">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significancy>
      (略)
      <Significancy type="風危険度" refID="9">
        <Name>注意報級未満</Name>
        <Code>00</Code>
      </Significancy>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>海上</AreaName>
      <Significancy type="風危険度" refID="1">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significancy>
      <Significancy type="風危険度" refID="2">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significancy>
      (略)
      <Significancy type="風危険度" refID="9">
        <Name>注意報級未満</Name>
        <Code>00</Code>
      </Significancy>
    </Local>
  </Base>
</SignificancyPart>

```

時刻定義の方法による記述パターンの違いの例

〔3 時間毎の時刻定義の場合〕

```

<SignificancyPart>
  <Base>
    <Significancy type="波危険度" refID="1">
      <Name>警報級</Name>
      <Code>30</Code>
    </Significancy>
    <Significancy type="波危険度" refID="2">
      <Name>警報級</Name>
      <Code>30</Code>
    </Significancy>
    (略)

```

```

<Significancy type="波危険度" refID="9">
  <Name>注意報級</Name>
  <Code>10</Code>
</Significancy>
<Addition>
  <Note>うねり</Note>
</Addition>
</Base>
</SignificancyPart>

```

[1 日毎の時刻定義の場合]

```

<SignificancyPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>八代海側</AreaName>
      <Significancy type="高潮危険度" refID="1">
        <Name>警報級</Name>
        <Code>30</Code>
      </Significancy>
      <Significancy type="高潮危険度" refID="2">
        <Name>警報級</Name>
        <Code>30</Code>
      </Significancy>
      <Significancy type="高潮危険度" refID="3">
        <Name>警報級</Name>
        <Code>30</Code>
      </Significancy>
      <PeakTime>
        <Term>満潮時頃</Term>
      </PeakTime>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>天草灘側</AreaName>
      <Significancy type="高潮危険度" refID="1">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significancy>
      <Significancy type="高潮危険度" refID="2">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significancy>
      <Significancy type="高潮危険度" refID="3">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significancy>
      <PeakTime>
        <Term>満潮時頃</Term>
      </PeakTime>
    </Local>
  </Base>
</SignificancyPart>

```

- [解説] 1 Base 以下に、危険度 (Significancy/Name) と当該危険度に対応するコード (Significancy/Code) を記載する。また、当該危険度に対する現象のピークの発現時間情報 (PeakTime 部)、特記事項 (Attention 部)、付加事項 (Addition 部) を記載することがある。地域を分けて危険度を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName)、危険度 (Significancy/Name)、及び当該危険度に対応するコード (Significancy/Code) を記載する。また、当該危険度に対する現象のピークの発現時間情報 (PeakTime 部)、特記事項 (Attention 部)、付加事項 (Addition 部) を記載することがある。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。危険度とコードの対応は別表 5 のとおり。
- 2 ピークの発現時間情報 (PeakTime 部) には、現象のピークが発現する日付 (Date) や時間帯 (Term) の文字列表現を記載する。PeakTime 部が出現する特別警報・警報・注意報の種類と、対応する日付及び時間帯の文字列表現の組み合わせは別表 6 のとおり。
- 3 特記事項の解説は、「3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 4 Attention 部」の内容のうち、“府県予報区内の市町村等”を“市町村等 (市町村等内で地域を分けて記載する場合にはそれぞれの地域)”に読み替える。
- 4 付加事項の解説は、「3 - 2 - 1 - 1 - 1 - 5 Addition 部」の内容のうち、“府県予報区内の市町村

等”を“市町村等（市町村等内で地域を分けて記載する場合にはそれぞれの地域）”に読み替える。

- 5 危険度の属性 type は危険度の種類、属性 refID は時刻定義セットにおける参照番号を記載する。各気象要素名と危険度の属性 type の値、属性 refID の値の範囲の対応は別表 4 のとおり。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 3 SubsequentSignificancyPart 部

時刻定義セットの最後に記載される予報期間を超えて継続する危険度の内容を記載する。

〔地域全体について記載する場合〕

```
<SubsequentSignificancyPart>
  <Base>
    <Significancy type="土砂災害危険度">
      <Name>特別警報級</Name>
      <Code>50</Code>
    </Significancy>
    <Sentence>以後も特別警報級 </Sentence>
  </Base>
</SubsequentSignificancyPart>
```

〔地域を分けて記載する場合〕

```
<SubsequentSignificancyPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>陸上</AreaName>
      <Significancy type="風危険度">
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significancy>
      <Sentence>以後も注意報級</Sentence>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>海上</AreaName>
      <Significancy type="風危険度">
        <Name>警報級</Name>
        <Code>30</Code>
      </Significancy>
      <Sentence>以後も警報級</Sentence>
    </Local>
  </Base>
</SubsequentSignificancyPart>
```

- 〔解説〕 1 SubsequentSignificancyPart 部は、Property/Type の内容が“危険度”のとき、時刻定義セットの最後に記載される予報期間を超えて危険度が継続する場合に、同一 Property 部内に 1 回～複数回出現する。
- 2 時刻定義セットの最後に記載される予報期間を超えて危険度が継続する場合、危険度の種類に対応する継続を予想した危険度（Base/Significancy/Name）、当該危険度に対応するコード（Base/Significancy/Code）、及び当該危険度の継続を予想することを示す文字列表現（Base/Sentence）を記載する。地域を分けて危険度を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）、継続を予想した危険度（Significancy/Name）、当該危険度に対応するコード（Significancy/Code）、及び当該危険度の継続を予想することを示す文字列表現（Sentence）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。気象要素名と危険度の属性 type 対応は別表 4 のとおり。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 4 WindDirectionPart 部

風向の時系列について諸要素を記載する。

〔地域全体について記載する場合〕

```
<WindDirectionPart>
  <Base>
    <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8 方位漢字" refID="1" condition="風雪" description="西の風">西
  </jmx_eb:WindDirection>
    <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8 方位漢字" refID="2" condition="風雪" description="西の風">西
  </jmx_eb:WindDirection>
    (略)
    <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8 方位漢字" refID="9" description="西の風">西</jmx_eb:WindDirection>
  </Base>
</WindDirectionPart>
```

〔地域を分けて記載する場合〕

<WindDirectionPart>

<Base>

<Local>

<AreaName>陸上</AreaName>

<jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8 方位漢字" refID="1" description="西の風">西</jmx_eb:WindDirection>

<jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8 方位漢字" refID="2" description="南西の風">南西</jmx_eb:WindDirection>

(略)

<jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8 方位漢字" refID="9" description="南の風">南</jmx_eb:WindDirection>

</Local>

<Local>

<AreaName>海上</AreaName>

<jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8 方位漢字" refID="1" description="西の風">西</jmx_eb:WindDirection>

<jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8 方位漢字" refID="2" description="西の風">西</jmx_eb:WindDirection>

(略)

<jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8 方位漢字" refID="9" condition="値なし" />

</Local>

</Base>

</WindDirectionPart>

〔解説〕 1 風について、卓越風向 (Base/WindDirection) を記載する。地域を分けて風向を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と風向 (WindDirection) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

2 風向 (WindDirection) については、8 方位の漢字表現を用いる。属性 type は“風向”、属性 unit は“8 方位漢字”の固定。属性 refID は時刻定義セットにおける参照番号を記載し、“1”～“9”の値をとる。属性 condition は当該 refID に対応する時間帯の風危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。また、当該 refID に対応する時間帯に雪を伴う場合は“風雪”を記載する。属性 description に風向の文字列表現を記載する。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 5 WindSpeedPart 部

風速の時系列について諸要素を記載する。

〔地域全体について記載する場合〕

<WindSpeedPart>

<Base>

<jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" refID="1" description="1 2 メートル">12</jmx_eb:WindSpeed>

<jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" refID="2" description="1 2 メートル">12</jmx_eb:WindSpeed>

(略)

<jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" refID="9" description="1 2 メートル">12</jmx_eb:WindSpeed>

</Base>

</WindSpeedPart>

〔地域を分けて記載する場合〕

<WindSpeedPart>

<Base>

<Local>

<AreaName>陸上</AreaName>

<jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" refID="1" description="1 2 メートル">12</jmx_eb:WindSpeed>

<jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" refID="2" condition="風雪" description="1 2 メートル

(略)

<jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" refID="9" description="1 2 メートル">12</jmx_eb:WindSpeed>

</Local>

<Local>

<AreaName>海上</AreaName>

<jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" refID="1" description="2 0 メートル">20</jmx_eb:WindSpeed>

<jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" refID="2" description="2 0 メートル">20</jmx_eb:WindSpeed>

(略)

<jmx_eb:WindSpeed type="最大風速" unit="m/s" refID="9" description="2 0 メートル">20</jmx_eb:WindSpeed>

</Local>

</Base>

</WindSpeedPart>

〔解説〕 1 風について、最大風速 (Base/WindSpeed) を記載する。地域を分けて最大風速を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と最大風速 (WindSpeed) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

- 2 風速 (WindSpeed) には最大風速を記載する。属性 type は“最大風速”、属性 unit は“m/s”の固定。属性 refID は時刻定義セットにおける参照番号を記載し、“1”～“9”の値をとる。属性 condition は当該 refID に対応する時間帯の風危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。また、当該 refID に対応する時間帯に雪を伴う場合は“風雪”を記載する。属性 description に最大風速の文字列表現を記載する。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 6 VisibilityPart 部

視程の時系列について諸要素を記載する。

〔地域全体について記載する場合〕

```
<VisibilityPart>
  <Base>
    <jmx_eb:Visibility type="視程" unit="m" condition="以下" description="200メートル以下">200</jmx_eb:Visibility>
  </Base>
</VisibilityPart>
```

〔地域を分けて記載する場合〕

```
<VisibilityPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>陸上</AreaName>
      <jmx_eb:Visibility type="視程" unit="m" condition="以下" description="100メートル以下">100</jmx_eb:Visibility>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>海上</AreaName>
      <jmx_eb:Visibility type="視程" unit="m" condition="以下" description="500メートル以下">500</jmx_eb:Visibility>
    </Local>
  </Base>
</VisibilityPart>
```

〔解説〕1 濃霧について、予報の対象期間中に視程 (Base/Visibility) がある値以下となることを記載する。地域を分けて視程を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と視程 (Visibility) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

- 2 視程 (Visibility) の属性 type は“視程”、属性 unit は“m”、属性 condition は“以下”の固定。属性 description に視程の文字列表現を記載する。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 7 WaveHeightPart 部

波高の時系列について諸要素を記載する。

〔海域全体について記載する場合〕

```
<WaveHeightPart>
  <Base>
    <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" refID="1" description="1.5メートル">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
    <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" refID="2" description="1.5メートル">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
    (略)
    <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" refID="9" description="3メートル">3</jmx_eb:WaveHeight>
  </Base>
</WaveHeightPart>
```

〔海域を分けて記載する場合〕

```
<WaveHeightPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>内海</AreaName>
      <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" refID="1" description="1.5メートル">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
      <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" refID="2" description="1.5メートル">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
      (略)
      <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" refID="9" description="1.5メートル">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>外海</AreaName>
      <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" refID="1" description="2.5メートル">2.5</jmx_eb:WaveHeight>
      <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" refID="2" description="2.5メートル">2.5</jmx_eb:WaveHeight>
      (略)
      <jmx_eb:WaveHeight type="波高" unit="m" refID="9" description="2.0メートル">2.0</jmx_eb:WaveHeight>
    </Local>
  </Base>
</WaveHeightPart>
```

```
</Base>
</WaveHeightPart>
```

〔解説〕 1 波について、最大波高（Base/WaveHeight）を記載する。海域を分けて最大波高を記載する場合には、Base/Local 以下に、海域名（AreaName）と最大波高（WaveHeight）を記載する。Local は記載する海域の数だけ繰り返すが、一部の海域を記載しない場合がある。

2 波高（WaveHeight）には最大波高を記載する。属性 type は“波高”、属性 unit は“m”の固定。属性 refID は時刻定義セットにおける参照番号を記載し、“1”～“9”の値をとる。属性 condition は当該 refID に対応する時間帯の波危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。属性 description に最大波高の文字列表現を記載する。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 8 PrecipitaionPart 部

雨量の時系列について諸要素を記載する。

```
<PrecipitationPart>
  <Base>
    <jmx_eb:Precipitation type="1 時間最大雨量" unit="mm" refID="1" description="0 ミリ">0</jmx_eb:Precipitation>
    <jmx_eb:Precipitation type="1 時間最大雨量" unit="mm" refID="2" description="2 0 ミリ">20</jmx_eb:Precipitation>
    (略)
    <jmx_eb:Precipitation type="1 時間最大雨量" unit="mm" refID="9" description="6 0 ミリ">60</jmx_eb:Precipitation>
  </Base>
</PrecipitationPart>
<PrecipitationPart>
  <Base>
    <jmx_eb:Precipitation type="3 時間最大雨量" unit="mm" refID="1" description="0 ミリ">0</jmx_eb:Precipitation>
    <jmx_eb:Precipitation type="3 時間最大雨量" unit="mm" refID="2" description="3 0 ミリ">30</jmx_eb:Precipitation>
    (略)
    <jmx_eb:Precipitation type="3 時間最大雨量" unit="mm" refID="9" description="1 4 0 ミリ">140</jmx_eb:Precipitation>
  </Base>
</PrecipitationPart>
```

〔解説〕 1 雨について、最大雨量（Base/Precipitation）を記載する。

2 雨量（Precipitation）には最大雨量を記載する。属性 type は最大雨量の種類を表し、“1 時間最大雨量”または“3 時間最大雨量”を記載する。同一地域で複数の属性 type の値を出現させる場合は、値ごとに個別の PrecipitaionPart 部を記載する。属性 unit は“mm”の固定。属性 refID は時刻定義セットにおける参照番号を記載し、“1”～“9”の値をとる。属性 condition は当該 refID に対応する時間帯の浸水害危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。属性 description に最大雨量の文字列表現を記載する。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 9 SnowfallDepthPart 部

降雪量について諸要素を記載する。

〔地域全体について降雪量を記載する場合〕

```
<SnowfallDepthPart>
  <Base>
    <jmx_eb:SnowfallDepth type="6 時間最大降雪量" unit="cm" description="4 0 センチ">40</jmx_eb:SnowfallDepth>
    <jmx_eb:SnowfallDepth type="1 2 時間最大降雪量" unit="cm" description="6 0 センチ">60</jmx_eb:SnowfallDepth>
  </Base>
</SnowfallDepthPart>
```

〔地域を分けて降雪量を記載する場合〕

```
<SnowfallDepthPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>山地</AreaName>
      <jmx_eb:SnowfallDepth type="2 4 時間最大降雪量" unit="cm" description="9 0 センチ">90</jmx_eb:SnowfallDepth>
    </Local>
    <Local>
      <AreaName>平地</AreaName>
      <jmx_eb:SnowfallDepth type="6 時間最大降雪量" unit="cm" description="3 0 センチ">30</jmx_eb:SnowfallDepth>
      <jmx_eb:SnowfallDepth type="1 2 時間最大降雪量" unit="cm" description="4 0 センチ">40</jmx_eb:SnowfallDepth>
    </Local>
  </Base>
```


</SnowfallDepthPart>

【解説】 1 雪について、全ての予報期間を通じた最大降雪量 (Base/SnowfallDepth) を記載する。地域を分けて最大降雪量に記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と最大降雪量 (SnowfallDepth) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

2 降雪量 (SnowfallDepth) には最大降雪量を記載する。属性 type は最大降雪量の種類を表し、“6 時間最大降雪量”、“12 時間最大降雪量”、“24 時間最大降雪量”等を記載する。同一地域で複数の種類の最大降雪量を記載する場合には、SnowfallDepth を、記載する最大降雪量の種類の数だけ繰り返す。属性 unit は“cm”の固定。属性 description に最大降雪量の文字列表現を記載する。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 10 HumidityPart 部

湿度の時系列について諸要素を記載する。

```
<HumidityPart>
  <Base>
    <jmx_eb:Humidity type="実効湿度" unit="%" refID="1" description="60パーセント">60</jmx_eb:Humidity>
    <jmx_eb:Humidity type="実効湿度" unit="%" refID="2" description="60パーセント">60</jmx_eb:Humidity>
    <jmx_eb:Humidity type="実効湿度" unit="%" refID="3" description="60パーセント">60</jmx_eb:Humidity>
  </Base>
</HumidityPart>
<HumidityPart>
  <Base>
    <jmx_eb:Humidity type="最小湿度" unit="%" refID="1" description="30パーセント">30</jmx_eb:Humidity>
    <jmx_eb:Humidity type="最小湿度" unit="%" refID="2" description="30パーセント">30</jmx_eb:Humidity>
    <jmx_eb:Humidity type="最小湿度" unit="%" refID="3" description="30パーセント">30</jmx_eb:Humidity>
  </Base>
</HumidityPart>
```

【解説】 1 乾燥について、湿度 (Base/Humidity) に実効湿度、最小湿度を記載する。地域を分けて湿度を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名 (AreaName) と湿度 (Humidity) を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。また、実効湿度のみ、最小湿度のみの記載となる場合もある。

2 湿度 (Humidity) の属性 type には“実効湿度”または“最小湿度”を記載する。同一地域で複数の属性 type の値を出現させる場合は、HumidityPart 部を繰り返す。属性 unit は“%”の固定。属性 refID は時刻定義セットにおける参照番号を記載し、“1”～“3”の値をとる。属性 condition は当該 refID に対応する時間帯の乾燥危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。属性 description に湿度の文字列表現を記載する。

3 - 3 - 1 - 2 - 1 - 2 - 11 TidalLevelPart 部

潮位の時系列について諸要素を記載する。

地域の数による記述パターンの違いの例

〔地域全体について記載する場合〕

```
<TidalLevelPart>
  <Base>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="1" description="標高 2.3メートルの高さ">2.3</jmx_eb:TidalLevel>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="2" description="標高 2.3メートルの高さ">2.3</jmx_eb:TidalLevel>
    (略)
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="9" description="標高 2.3メートルの高さ">2.3</jmx_eb:TidalLevel>
  </Base>
</TidalLevelPart>
```

〔地域を分けて記載する場合〕

```
<TidalLevelPart>
  <Base>
    <Local>
      <AreaName>東京湾側</AreaName>
      <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="1" description="標高 1.9メートルの高さ">1.9</jmx_eb:TidalLevel>
      <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="2" description="標高 1.9メートルの高さ">1.9</jmx_eb:TidalLevel>
      (略)
      <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="9" description="標高 1.7メートルの高さ">1.7</jmx_eb:TidalLevel>
    </Local>
  </Base>
</TidalLevelPart>
```

```

">1.7</jmx_eb:TidalLevel>
  </Local>
  <Local>
    <AreaName>相模湾側</AreaName>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="1" description="標高 1.5メートルの高さ
">1.5</jmx_eb:TidalLevel>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="2" description="標高 1.5メートルの高さ
">1.5</jmx_eb:TidalLevel>
    (略)
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="9" description="標高 1.2メートルの高さ
">1.2</jmx_eb:TidalLevel>
  </Local>
</Base>
</TidalLevelPart>

```

時刻定義の方法による記述パターンの違いの例

〔3時間毎の時刻定義の場合〕

```

<TidalLevelPart>
  <Base>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="1" description="標高 2.3メートルの高さ
">2.0</jmx_eb:TidalLevel>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="2" description="標高 2.3メートルの高さ
">2.0</jmx_eb:TidalLevel>
    (略)
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="9" description="標高 2.5メートルの高さ
">2.0</jmx_eb:TidalLevel>
  </Base>
</TidalLevelPart>

```

〔1日毎の時刻定義の場合〕

```

<TidalLevelPart>
  <Base>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="1" description="標高 2.0メートルの高さ
">2.0</jmx_eb:TidalLevel>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="2" description="標高 2.0メートルの高さ
">2.0</jmx_eb:TidalLevel>
    <jmx_eb:TidalLevel type="最高潮位" unit="m" refID="3" description="標高 2.0メートルの高さ
">2.0</jmx_eb:TidalLevel>
  </Base>
</TidalLevelPart>

```

- 〔解説〕 1 高潮について、最高潮位（Base/TidalLevel）を記載する。地域を分けて潮位を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と最高潮位（TidalLevel）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。
- 2 潮位（TidalLevel）には最高潮位を記載する。属性 type は“最高潮位”、属性 unit は“m”の固定。属性 refID は時刻定義セットにおける参照番号を記載し、“1”－“9”の値をとる。属性 condition は当該 refID に対応する時間帯の高潮危険度を表すコードが“00”である場合に“値なし”を記載することがある。属性 description に最高潮位の文字列表現を記載する。

3 - 3 - 1 - 2 - 2 Area 部

3 - 2 - 4 - 1 - 2 の内容に等しい。

別表 1：特別警報・警報・注意報と対応するコード

種 類	コード	種 類	コード	種 類	コード
解 除	00	大雨注意報	10	暴風雪特別警報	32
暴風雪警報	02	大雪注意報	12	大雨特別警報	33
大雨警報	03	風雪注意報	13	暴風特別警報	35
洪水警報	04	雷注意報	14	大雪特別警報	36
暴風警報	05	強風注意報	15	波浪特別警報	37
大雪警報	06	波浪注意報	16	高潮特別警報	38
波浪警報	07	融雪注意報	17		
高潮警報	08	洪水注意報	18		
		高潮注意報	19		
		濃霧注意報	20		
		乾燥注意報	21		
		なだれ注意報	22		
		低温注意報	23		
		霜注意報	24		
		着氷注意報	25		
		着雪注意報	26		
		その他の注意報	27		

別表 2：特別警報・警報・注意報の種類と対応する時刻定義の方法

特別警報・警報・注意報の種類	時刻定義の方法（時刻は全て日本標準時）
大雨特別警報・警報・注意報 大雪特別警報・警報・注意報 暴風雪特別警報・警報、風雪注意報 暴風特別警報・警報、強風注意報 波浪特別警報・警報・注意報 高潮特別警報・警報・注意報※ 雷注意報 濃霧注意報 融雪注意報 着氷注意報 着雪注意報	0-3 時、3-6 時、…、21-24 時の 3 時間毎を予報期間とした時刻定義の場合、当該電文の発表時刻（ReportDateTime）を含む予報期間の時刻 ID（timeID）を“1”、それに続く予報期間の時刻 ID を“2”～“9”と定義する。
高潮特別警報・警報・注意報※ 乾燥注意報 なだれ注意報 低温注意報 霜注意報	0-24 時の 1 日毎を予報期間とした時刻定義の場合、当該電文の発表時刻（ReportDateTime）を含む予報期間の時刻 ID（timeID）を“1”、それに続く予報期間の時刻 ID を“2”、“3”と定義する。

※高潮特別警報・警報・注意報については、いずれの時刻定義もあり得る。

別表 3 : 特別警報・警報・注意報に用いる一日の時間細分の用語

時刻	予報用語
0 時	未明
3 時	
6 時	明け方
9 時	朝
12 時	昼前
15 時	昼過ぎ
18 時	夕方
21 時	夜のはじめ頃
24 時	夜遅く

別表 4 : 特別警報・警報・注意報の種類と対応する Property 部の記載内容

特別警報・警報・注意報の種類 (Kind/Name) ※ 1	気象要素名 (Kind/Property/ Type) ※ 1	危険度 (Significancy) の属性の値	
		属性 type※ 2	属性 refID※ 3
暴風雪特別警報・警報、風雪注意報 暴風特別警報・警報、強風注意報	危険度	風危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)
	風	風向 最大風速	
大雨特別警報・警報・注意報	危険度	土砂災害危険度 浸水害危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)
	雨※ 4	1 時間最大雨量 3 時間最大雨量	
洪水警報・注意報	危険度	洪水害危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)
大雪特別警報・警報・注意報	危険度	雪危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)
	雪	6 時間最大降雪量 12 時間最大降雪量 24 時間最大降雪量	時刻定義しない
波浪特別警報・警報・注意報	危険度	波危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)
	波	波高	
高潮特別警報・警報・注意報	危険度	高潮危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)、 “1” ~ “3” (1 日毎)
	高潮	最高潮位	
雷注意報	危険度	雷危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)
融雪注意報	危険度	融雪危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)
濃霧注意報	危険度	濃霧危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)
	濃霧	視程	時刻定義しない
乾燥注意報	危険度	乾燥危険度	“1” ~ “3” (1 日毎)
	乾燥	実効湿度 最小湿度	
なだれ注意報	危険度	なだれ危険度	“1” ~ “3” (1 日毎)
低温注意報	危険度	低温危険度	“1” ~ “3” (1 日毎)
霜注意報	危険度	霜危険度	“1” ~ “3” (1 日毎)
着氷注意報	危険度	着氷危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)
着雪注意報	危険度	着雪危険度	“1” ~ “9” (3 時間毎)

※ 1 Body/MeteorologicalInfos/TimeSeriesInfo/Item/以下の構造を示す。

※ 2 Body/MeteorologicalInfos/TimeSeriesInfo/Item/Kind/Property/SignificancyPart/Base/、
Body/MeteorologicalInfos/TimeSeriesInfo/Item/Kind/Property/SignificancyPart/Base/Local/、

Body/MeteorologicalInfos/TimeSeriesInfo/Item/Kind/Property/SubsequentSignificancyPart/Base/、
Body/MeteorologicalInfos/TimeSeriesInfo/Item/Kind/Property/SubsequentSignificancyPart/Base/ Local/
に出現する危険度の属性。

※3 Body/MeteorologicalInfos/TimeSeriesInfo/Item/Kind/Property/SignificancyPart/Base/、
Body/MeteorologicalInfos/TimeSeriesInfo/Item/Kind/Property/SignificancyPart/Base/Local/、
に出現する危険度の属性。

※4 危険度の属性の値が“浸水害危険度”をとるときのみ出現する。

別表5：特別警報・警報・注意報が対象とする気象現象の危険度と対応するコード

危険度	コード
特別警報級	50
警報級	30
注意報級	10
注意報級未満	00

別表6：特別警報・警報・注意報の種類とピークの発現時間情報の記載内容の対応

特別警報・警報・注意報の種類	ピークの発現時間情報 (PeakTime)	
	日付の文字列表現 (Date)	時間帯の文字列表現 (Term)
高潮特別警報・警報・注意報 (予報期間を3時間毎に定義する場合)	“○日”	“○時頃” (○は1時間間隔)
高潮特別警報・警報・注意報 (予報期間を1日毎に定義する場合)	記載しない	“満潮時頃”
霜注意報	“○日”	別表3の時間細分の用語

(参考)

特別警報・警報・注意報は、以下の通り警戒レベルと対応している。

情報	とるべき行動	警戒レベル
大雨特別警報	災害がすでに発生していることを示す警戒レベル5に相当します。 <u>何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となっています。命を守るための最善の行動をとってください。</u>	警戒レベル5相当
土砂災害警戒情報 高潮特別警報 高潮警報	地元の自治体が避難勧告を発令する目安となる情報です。避難が必要とされる警戒レベル4に相当します。災害が想定されている区域等では、 <u>自治体からの避難勧告の発令に留意するとともに、避難勧告が発令されていなくても危険度分布等を参考に自ら避難の判断をしてください。</u>	警戒レベル4相当
大雨警報 洪水警報 高潮注意報(警報に切り替える可能性が高い旨に言及されているもの)	地元の自治体が避難準備・高齢者等避難開始を発令する目安となる情報です。高齢者等の避難が必要とされる警戒レベル3に相当します。災害が想定されている区域等では、 <u>自治体からの避難準備・高齢者等避難開始の発令に留意するとともに、危険度分布等を参考に高齢者等の方は自ら避難の判断をしてください。</u>	警戒レベル3相当
大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報(警報に切り替える可能性に言及されていないもの)	避難行動の確認が必要とされる警戒レベル2です。 <u>ハザードマップ等により、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認</u> してください。	警戒レベル2
早期注意情報 (警報級の可能性) *	災害への心構えを高める必要があることを示す警戒レベル1です。 <u>最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構えを高めてください。</u>	警戒レベル1

* 大雨に関して、明日までの期間に[高]又は[中]が予想されている場合。